

都市再生整備計画 事後評価シート
枚方中部地区

平成25年2月

大阪府枚方市

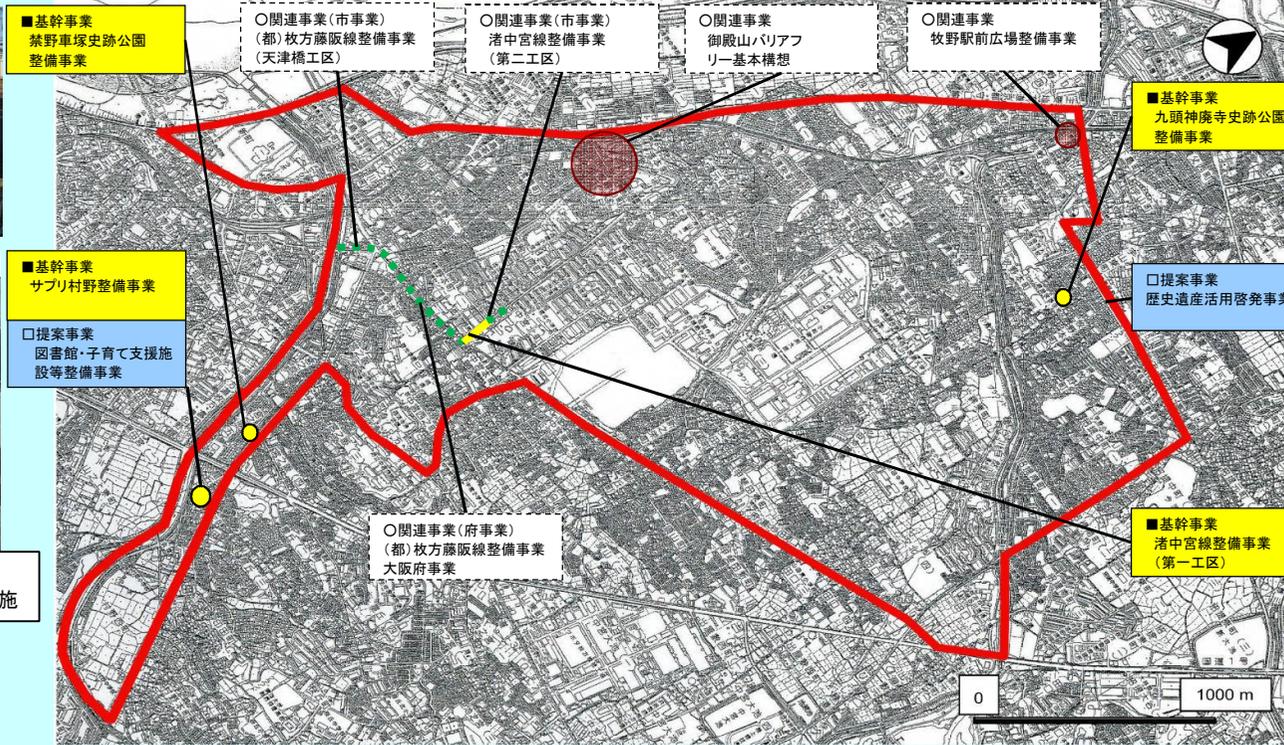
評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府	市町村名	枚方市	地区名	枚方中部地区			面積	680ha					
交付期間	平成20年度～平成24年度	事後評価実施時期	平成24年度	交付対象事業費	615百万円	国費率	40%							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園(九頭神鹿寺史跡公園整備事業、茶野草塚史跡公園整備事業)											
		提案事業	まちづくり活動推進事業(歴史遺産活用啓発事業)											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(御殿山小倉線整備事業)	地権者との協議に時間を要し計画期間内の事業実施が困難となったため削除した。			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
		提案事業	高次都市施設(総合文化施設整備事業)	経済状況等の変化により、交付期間内の事業着手が困難となったため削除した。			総合文化施設整備事業の削除により、関連する指標及び数値目標を削除した。							
	新たに追加した事業	提案事業	地域創造支援事業(コミュニティーFM整備整備事業)	総合文化施設整備事業にともなって削除した。			総合文化施設整備事業の削除により、関連する指標及び数値目標を削除した。							
		基幹事業	道路(清中宮線整備事業(第一工区))	新市民病院建設に伴う清中宮線歩道整備を実施することにより、計画目標である安全・安心なまちづくりを進めるため新たに追加した。			清中宮線整備事業の追加により、指標及び数値目標を追加した。							
		提案事業	既存建造物活用事業(サブリ村野整備事業)	サブリ村野整備を実施することにより、市民による様々な文化・まちづくり活動の充実を図るため、新たに追加した。			サブリ村野整備事業の追加により、関連する指標及び数値目標を追加した。							
	交付期間の変更	当初変更	平成20年度～平成24年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	イベント等への参加者数	人/年	150	H19	250	H24	250 (見込み値)	○	あり	なし	史跡公園の整備によって郷土の歴史に対する市民の関心が高まり、史跡公園を巡る散策や史跡をテーマとしたシンポジウムなどイベントへの参加者数が増加した。 評価値は見込み値であるが、事業開始以降毎年参加者数250人を超えており、目標値を達成する見込みである。	平成25年度内
		指標2	幹線道路の渋滞長	m	120	H21	30	H24	120 (推定値)	×	あり	なし	清中宮線整備に伴う右折レーン(車道部)設置については、平成25年度中に大阪府により府道杉田口禁野線の交差点改良に併せて施工する予定であるため、計画期間内で目標が達成できなかった。右折レーン設置後は、道路ネットワークの強化が図られ清中宮線における渋滞解消につながる。右折レーンの設置が、平成25年度末完成予定となるため、平成26年度以降、フォローアップを行う。	平成26年度内
指標3		歩行者の安全率	%	70	H21	100	H24	100 (推定値)	○	あり	なし	清中宮線は、平成24年度完成を目指し整備中であるが、整備後は歩道部分の供用により、歩行者の安全が確保される。 平成25年4月に供用開始となるため、平成25年度以降、フォローアップを行う。	平成25年度内	
指標4		市民活動拠点施設の利用件数	件/年	11,772	H21	17,512	H24	17,512 (推定値)	○	あり	なし	サブリ村野の整備により、新たな市民活動拠点施設が供用開始され、市民による様々な文化・まちづくり活動が行われることで、市民活動拠点施設の利用件数が増加する。平成25年4月に供用開始となるため、平成25年度以降、フォローアップを行う。	平成25年度内	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況		その他の数値指標1												
その他の数値指標2														
その他の数値指標3														
4)定性的な効果発現状況	・シンポジウムのアンケートにおいて、参加者より「交野ヶ原(枚方中部地区)の歴史が良く理解できた。」「枚方の古代の様子が見られ、楽しかった。」など、枚方の歴史や文化を理解できたという意見が寄せられた。													

地区の概要

枚方中部地区(大阪府枚方市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	歴史と文化を身近に学び生かすとともに、安全で安心に暮らせるまちづくり ①歴史的遺産と文化施設を活かした、都市の魅力を感じ、住み続けたいまちの形成を図る。 ②幹線道路整備による、道路ネットワークの強化と安全・安心なまちづくりを進める。	イベント等への参加者数	単位:人/年	150	H19	250	H24	250
幹線道路の渋滞長		単位:m	120	H21	30	H24	120	H24
歩行者の安全率		単位:%	70	H21	100	H24	100	H24
市民活動拠点施設の利用件数		単位:件/年	11,772	H21	17,512	H24	17,512	H24



写真は整備前(平成25年2月末完成予定) 耐震補強・バリアフリー化・内外装改装等を実施



※事業中のため、完成後のイメージとして隣接する第二工区の写真を掲載しています。

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・渚中宮線整備事業により、歩道が全区間で供用開始され歩行者の安全が図られた。 ・史跡公園の整備と併せて「歴史ウォーク」や「シンポジウム」を開催したことにより、市民が歴史を身近に感じることができることとなり、その認識や意識についても向上が図られた。 ・サプリ村野について、市民ニーズを踏まえながら、新たな市民活動拠点施設として整備することにより、市民による様々な文化・まちづくり活動が行われる。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路御殿山小倉線については、道路ネットワークの強化を図るため引き続き事業完了に向け取り組んでいく。 ・歩行者の安全性の確保を図るため、引き続き歩行空間の整備を進める。 ・史跡公園を、郷土史を体感する核として位置づけ、今後も歴史散策やシンポジウムなどの啓発普及を実施するとともに、次代を担う子どもたちへの歴史教育に活用し、市民の郷土の歴史に対する関心が高まり、地元への愛着が深まるよう努める。 ・今後も、市民活動拠点施設(サプリ村野)の持続的な利用を図るため、市民ニーズの把握や広報活動を促進する。